

岡山県感染症週報 2021年第36週 (9月6日～9月12日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

9月24日～30日は「結核予防週間」です。

【お知らせ】2021年第37週(9/13～9/19)の感染症週報は、<暫定版>を9月24日(金)に、<確定版>を9月27日(月)にホームページへ掲載いたします。

◆2021年 第36週(9/6～9/12)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第35週 5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名(30代 男)
梅毒 1名(10代 男)
- 第36週 2類感染症 結核 3名(70代 男 1名、80代 男 1名・女 1名)
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O157:50代 男)
5類感染症 梅毒 5名(20代 男 1名・女 1名、30代 男 1名、
50代 女 2名)
百日咳 1名(40代 男)
- 新型コロナウイルス感染症 507名

新型インフル
エンザ等感染症



©岡山県「ももっち」

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い!

	0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	年代非公表
男	7	18	72	44	37	24	10	10	1		
女	7	22	52	31	27	17	16	10	3	5	
性別非公表											94

【第37週 速報】

- 新型コロナウイルス感染症 156名の発生がありました(9月13日～16日)。
- 腸管出血性大腸菌感染症 2名(O157:小学生 女 1名、O血清群不明:40代 男 1名)の発生がありました(9月15日～16日)。

1. **新型コロナウイルス感染症**は、2021年第36週に507名の報告があり(第35週は1,130名)、県内での2020年からの累計報告数は14,730名となっています。詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡		RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	
突発性発疹	➡	★★	ヘルパンギーナ	➡	★★★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移：
 ↑：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ↓：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、現在世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。感染経路は、飛沫感染が主体と考えられますが、換気の悪い環境であれば、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させると考えられています。現在、予防接種が進められており、8月末までに65歳以上の高齢者の9割近くが2回のワクチン接種を完了しています。厚生労働省によると、7月と8月で、8,000人以上の高齢者の死亡を抑制した可能性があると推定されています。[\(第51回アドバイザリーボード\(令和3年9月8日\)資料2-6\)](#)

●症状

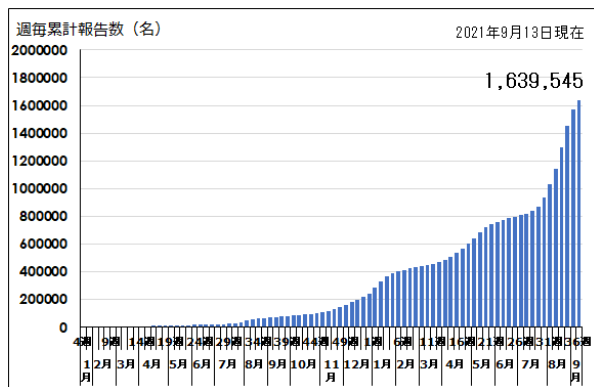
1～14日(通常5日程度)の潜伏期間の後に、主に発熱、咳、倦怠感等の風邪のような症状が出現しますが、下痢、嗅覚・味覚障害などを呈する場合があります。初期症状に続き、肺炎症状の増悪を示す場合があります。特に高齢者や基礎疾患(慢性閉塞性肺疾患(COPD)、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など)のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。他方、感染しても息苦しさなどを認めない比較的軽症の例や無症状の方も多くみられます。

また、いわゆる後遺症についての研究が進められており、その中間報告において「疲労感・倦怠感、息苦しさ、筋力低下、睡眠障害、思考力・集中力の低下、脱毛」が感染の診断から6か月後でも多く認められ、遷延する症状と考えられています。[\(COVID-19後遺障害に関する実態調査等\(厚生労働省\)\)](#)

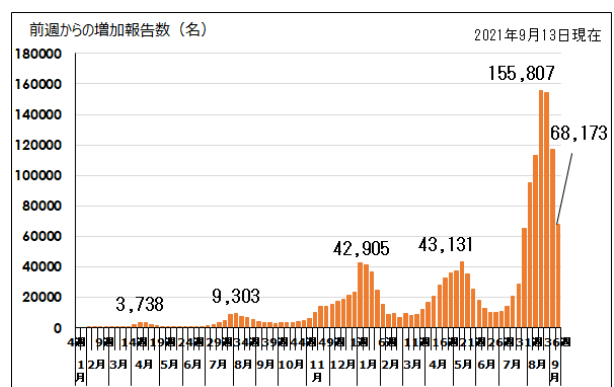
●発生状況

・全国

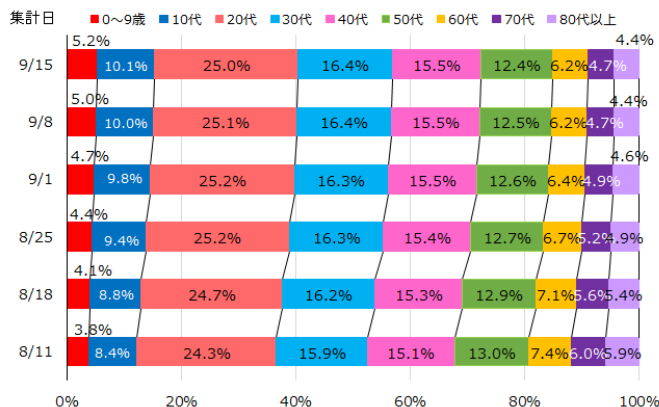
2021年9月16日0時現在まで、国内感染者は累計で1,657,004名、国内死亡者は16,959名、入院治療等を要する者は96,735名(うち重症者1,743名)となっています(厚生労働省ホームページより)。新規感染者数はほとんどの地域で減少しています。感染者数の減少に伴い入院者数は減少し、重症者数も減少してきていますが、都市部などでの医療提供体制の厳しい状況は継続しています。死亡者数の増加傾向は続いており、10代を含む若年層も死亡者が発生しています。年齢層にかかわらず、感染すれば重症化するおそれがあることにも注意が必要です。



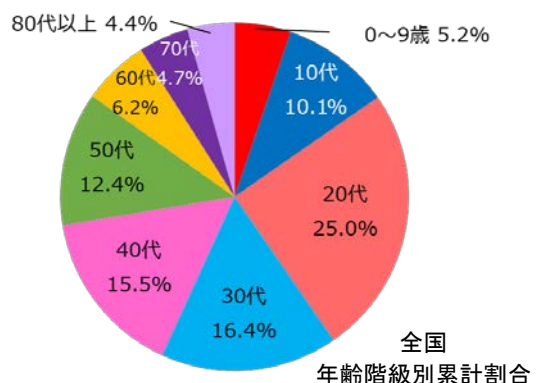
全国 週毎累計 厚生労働省ホームページより
(2021年第36週まで(～2021/9/12))



全国 週毎増加報告数 厚生労働省ホームページより
(2021年第36週まで(～2021/9/12))

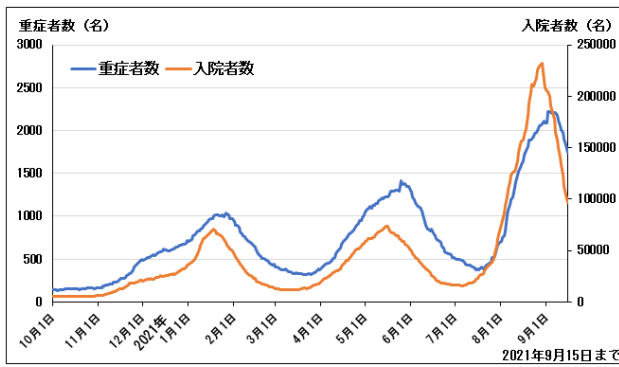


全国 週毎年齢階級別累計割合

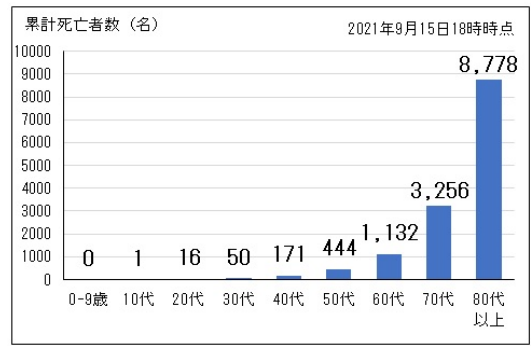


全国 年齢階級別累計割合

厚生労働省ホームページより(2021年9月15日18時時点)



全国 重症者数・入院者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2021年9月15日まで))



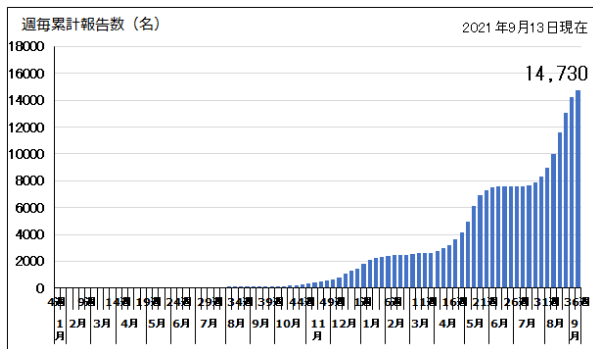
全国 年齢階級別死亡者数
厚生労働省ホームページより(2021年9月15日18時時点)

・岡山県(最新情報)

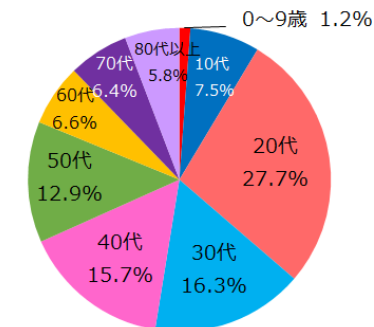
2021年9月16日までに、岡山県の感染者は累計で14,886名(男性7,396名、女性6,056名、性別非公表1,434名)、死亡者は135名となっています。会社や寮でクラスターが発生しています。岡山県は、9月13日からまん延防止等重点措置が適用されています(区域の指定については[岡山県まん延防止等重点措置\(新型コロナウイルス感染症【9月13日~9月30日】\)](#)をご覧ください)。引き続き、基本的な感染予防策(3密の回避、マスク着用、手洗い、換気など)の徹底とともに、混雑した場所や時間などの感染リスクが高い場面を避けることに留意が必要です。

第37週(速報値) 新型コロナウイルス感染症 156名 年齢階級別・性別発生状況一覧表

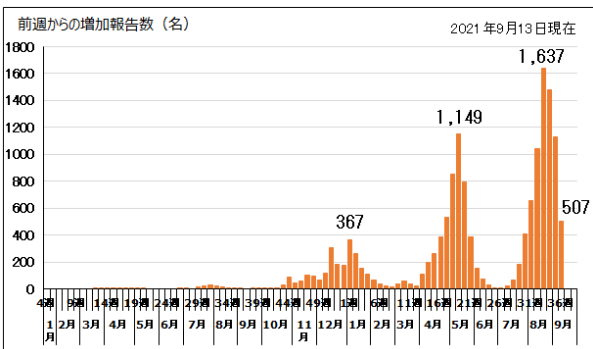
	0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	年代非公表
男	3	8	21	13	17	12	2	1	1		
女	3	8	16	14	6	7	3	1		1	
性別非公表											19



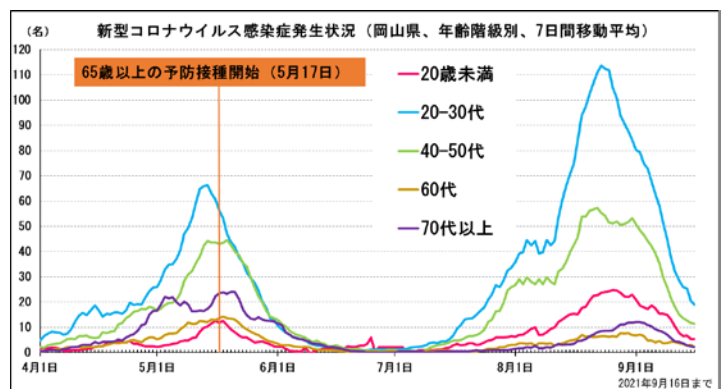
岡山県 週毎累計 (2021年第36週まで)



岡山県 年齢階級別累計割合(2021年9月16日まで)



岡山県 週毎増加報告数 (2021年第36週まで)



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、9月16日まで)

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、一般的な風邪や、インフルエンザと初期症状が似ています。

こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしてもらいましょう。

なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。

詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症について](#)

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

～ 結核は、過去の病じゃありません。(結核予防週間標語) ～

結核は過去の病気ではありません。日本では今でも年間 **10,000人以上**の新しい患者が報告され、**約 2,000人が命を落としている** 重大な感染症です。結核患者の多くが高齢者で、新たに結核患者として登録される方のうち **70歳以上の方の割合が約6割**に上っていますが、若年層(特に20代)で外国生まれの患者の登録が多いことが注目されます。

毎年 **9月24日～30日**は「結核予防週間」です。今一度、この機会に結核について理解を深めましょう。岡山県では、各保健所での啓発や相談など各種活動に取り組んでいます。

結核についてのご相談は、管轄の保健所へ → [岡山県保健所管轄区域案内\(厚生労働省\)](#)

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか？



- ✓ 痰のからむ咳が **2週間以上**続いている。
- ✓ 微熱・身体のだるさが **2週間以上**続いている。



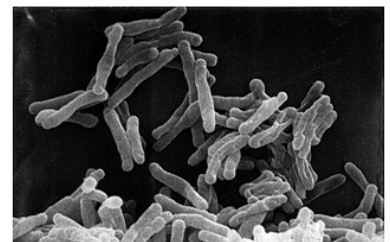
このような症状が続いたら、**結核**かもしれません。
早めに医療機関を受診し、**いつもの風邪と違うところ**を医師に伝えましょう。

注) 高齢者の方は典型的な症状が出ない場合もあります。定期的な健診が重要です。

[「結核 \(BCG ワクチン\)」 \(厚生労働省\)](#)

【結核とは】

結核菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。患者のくしゃみや咳の際に、体外に排出された結核菌が空気中に長時間漂い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します(飛沫核感染: 空気感染の一種)。感染してもほとんどの場合は免疫で抑えられますが、吸い込んだ結核菌の量が多かったり、免疫が低下している場合は発病することがあります。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともありますが、初期には無症状のこともあります。肺以外のリンパ節、腎臓、骨、腸、脳など様々な臓器に病巣を作ることもあります。



結核菌の電子顕微鏡写真: 公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センターホームページより

【結核の予防接種や健診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後1歳までには、必ずBCGワクチンを接種するようにしましょう。(予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。) また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1年に1回は健診を受けましょう。

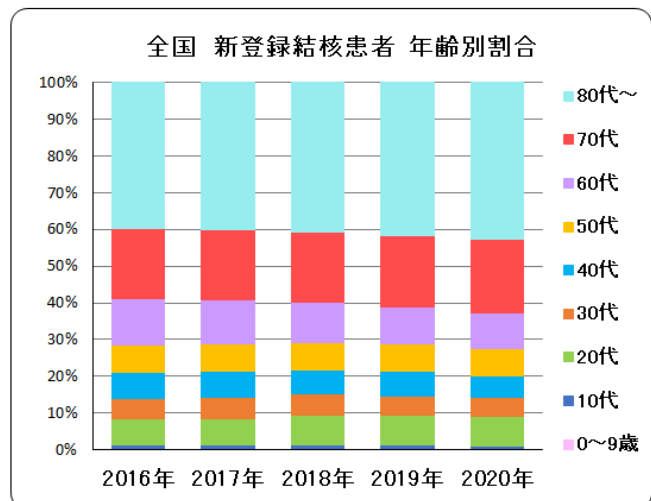
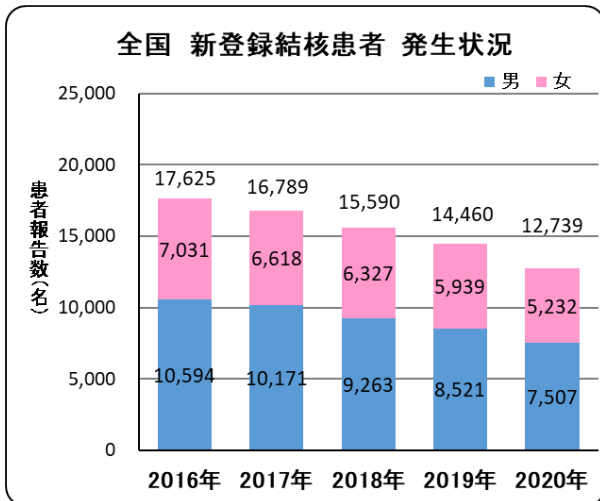
<一般向け> [結核とは? \(公益財団法人 結核予防会 結核研究所\)](#)

<医療従事者向け> [結核医療相談・技術支援センターを開設しています! \(岡山県 健康推進課\)](#)

結核について

【2020年の全国の結核発生状況】

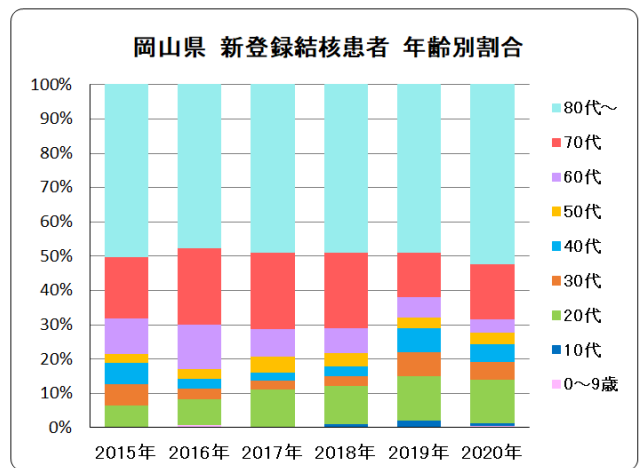
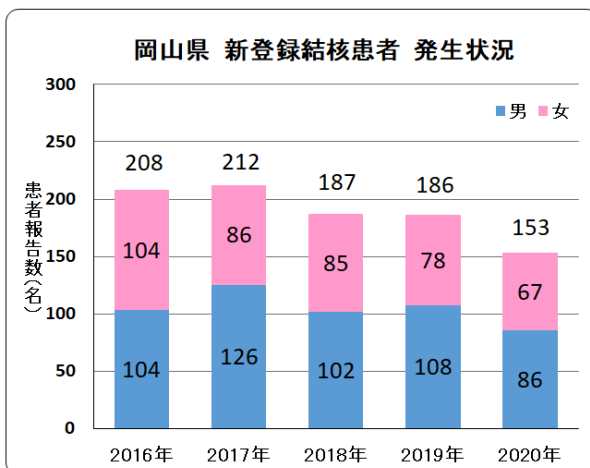
結核登録者情報調査年報によると、全国の新登録結核患者は12,739名で、2019年の14,460名から減少しました。年齢別では、70歳以上の新登録結核患者が全体の60%以上を占めており、患者が年々高齢化しています。日本は、2020年の結核り患率（人口10万あたり）が10.1と、前年から1.4ポイント減少しました（なお、結核り患率減少の一要因として、新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制なども考えられています。）。しかし、欧米諸国のり患率（米国：3、英国：8）と比較して、日本は未だ高いり患率であり、中まん延国の状況です（10以下が結核低まん延国）。都道府県別のり患率は、大阪府（15.8）が最も高く、次いで徳島県（13.5）、岐阜県（13.4）の順となっています。



【岡山県の発生状況】

2021年第36週まで（～9/12）の岡山県の報告数は175名（患者128名、無症状病原体保有者45名、疑似症患者1名、死亡者1名）となっています。2020年に岡山県内で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は153名で、2019年の186名から減少しました。年齢別では80歳以上が最も多くなっており、70歳以上の高齢者が新登録結核患者の69%を占めています。また、全国と同様に20～30代の比較的若年の患者の割合が、近年増加傾向を示しています。

岡山県のり患率は8.1と、2019年の9.8から1.7ポイント減少しました。全国と同様に新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制などが、り患率減少の一要因と考えられるため、引き続き注意が必要な状況です。



全国的にRSウイルス感染症が流行しています！

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。感染後2～8日の潜伏期間を経て、発熱、咳などの風邪様症状が現れます。1歳までに半数以上、2歳までにほぼ全てが初感染します。多くは軽症ですが、重症化すると咳がひどくなり、喘鳴や呼吸困難などが出現し、場合により細気管支炎、肺炎へと進展していきます。初感染乳幼児の約3割で症状が重くなるとされ、特に低体重出生児や心肺に基礎疾患がある場合、免疫不全がある場合はリスクが高まります。

【感染経路】

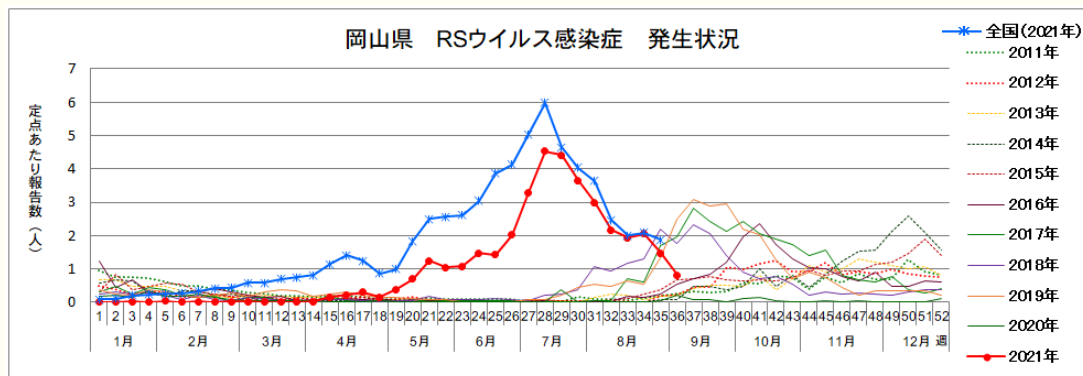
感染者の咳やくしゃみ、会話の際に出るしぶきを浴びてウイルスを吸い込む飛沫感染、感染者との直接の濃厚接触や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり、なめることによる間接的な接触で感染します。

【乳児への感染予防】

乳児期を過ぎると、RSウイルスに感染しても軽症となり、感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り1歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の防止につながります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。

【治療】

特效薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。 [RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)



◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。



0157の電子顕微鏡画像
(国立感染症研究所)

[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。
県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2022年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

岡山県の2019年4月~2021年6月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、23.2%(5月までは22.2%)と未だに低い状況です!
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)
[風疹に関する疫学情報\(国立感染症研究所\)](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト\(日本産婦人科医会\)](#)



©岡山県「ももっち」

★子どもの予防接種を確実に!★

現在、新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

子どもの予防接種は決して「不要不急」ではありません。

まだ接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで!子どもの予防接種と乳幼児健診\(厚生労働省\)](#)
[予防接種スケジュール\(国立感染症研究所\)](#)



©岡山県「ももっち・うらっち」

保健所別報告患者数 2021年 36週(定点把握)

(2021/09/06～2021/09/12)

2021年9月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	44	0.81	3	0.21	3	0.27	6	0.60	6	0.86	1	0.25	2	1.00	23	3.83
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.09	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	142	2.63	38	2.71	16	1.45	45	4.50	9	1.29	9	2.25	1	0.50	24	4.00
水痘	3	0.06	-	-	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
手足口病	28	0.52	15	1.07	1	0.09	10	1.00	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	23	0.43	8	0.57	6	0.55	1	0.10	7	1.00	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	44	0.81	18	1.29	3	0.27	5	0.50	16	2.29	1	0.25	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2021年 36週(発生レベル設定疾患)

(2021/09/06～2021/09/12)

2021年9月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	0.09	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	142	2.63	38	2.71	16	1.45	45	4.50	9	1.29	9	2.25	1	0.50	24	4.00
水痘	3	0.06	-	-	-	-	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
手足口病	28	0.52	15	1.07	1	0.09	10	1.00	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	44	0.81	18	1.29	3	0.27	5	0.50	16	2.29	1	0.25	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2021年 第36週 2021/09/06～2021/09/12)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	44	14	7	12	2	4	2	2	1	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	4	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1	1	-	
感染性胃腸炎	142	2	8	18	12	14	7	12	8	3	5	6	16	7	24
水痘	3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	
手足口病	28	-	-	20	6	-	-	1	-	-	-	-	-	1	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	23	1	7	14	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	44	-	4	15	16	4	2	2	-	-	1	-	-	-	
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2021年 36週

分類	疾病名	2021			疾病名	2021			疾病名	2021		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	176	252	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	38	103
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	1		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	4	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	1
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	5	7
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	3
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	4	11	日本脳炎	-	-	2
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	48	79
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	10	17	ウイルス性肝炎	-	3	10	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	24
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	1	1	急性脳炎	-	6	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	6	後天性免疫不全症候群	-	7	15
ジアルジア症		-	-	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	11	12	水痘(入院例に限る。)	-	3	5	先天性風しん症候群	-	1	-
梅毒		5	95	162	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	1	3
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	1	12	92
風しん		-	-	1	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症	507	13,290	1,440		-	-	-		-	-	-

※新型インフルエンザ等感染症

